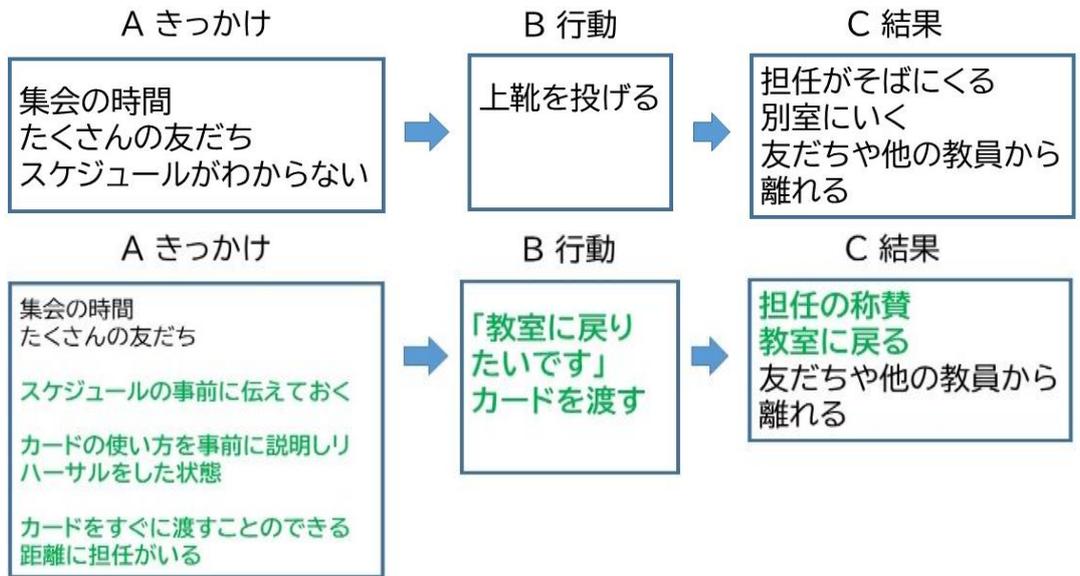


今回は、「解決策(AとCの改善)」について、困った行動のABC分析をみながら、適切な行動が増えるようにAとCに工夫をしていきます。



適切な行動が起こりやすいように、「A きっかけ」を改善しています。また、カードを渡した後は、すぐに称賛し一緒に教室に戻るように「C 結果」も変更しています。

Dくんががんばってカードを渡したとき、「もうちょっと、がんばろう。」「まだ、いけるんちゃう？」などの気持ちが湧いたとしても、「よく渡せたね」とDくんに伝わる方法で称賛し、すぐに教室に戻ることが重要です。

このように、AとCを改善すること(=環境を整える)で、行動を変えることを促すことができます。

今まで集会の場面で、繰り返し上靴を投げていた行動が減少し、カードを渡せる行動が増加し安定してきたら、大きな目標(例えば、集会の時間に決められた場所に座り、みんなの前に出て始まりと終わりの挨拶をするなど)に向けて、次の指導のステップを考えていきます。

そこで、大事になってくるのが2つあります。

1つは、「記録をとる」ことです。記録をとることで指導の成果が正確に客観的にわかります。2つめは、具体的な「達成の基準」と「中止の基準」を設けること。例えば、5回連続で成功したら達成とするなど決めておくことで、次の指導のステップに行くことができます。同じように3回連続で失敗したときは指導手続きを変更するなど、うまくいかない指導を継続しないためにも大切になります。

子どもたちの「さまざまな行動」を見つめるときに、子どもたち一人一人のよりよい支援を考えると、参考にさせていただければありがたいです◎

